

PROSOUND

2008
10

BRAND NEW PRODUCTION CONSOLE FILE #08

新世代のコンパクトDAWシステム
“Power Trio” (Apogee+Apple+Euphonix)

BROADCAST INSTALLATION

デジタル時代の創造工場 朝日放送新社屋完成

POST-PRODUCTION STUDIO REPORT

CROW STUDIO 3MAリニューアル・オープン



Portable Solid-State Recorders File No.14

ヤマハ POCKETRAK CX

PROSOUND FEATURE

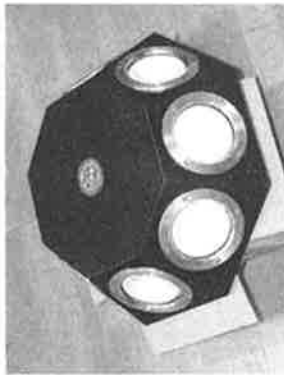
Fine Focus Cableが引き出すDAWの真のサウンド

北から プロサウンド 南から

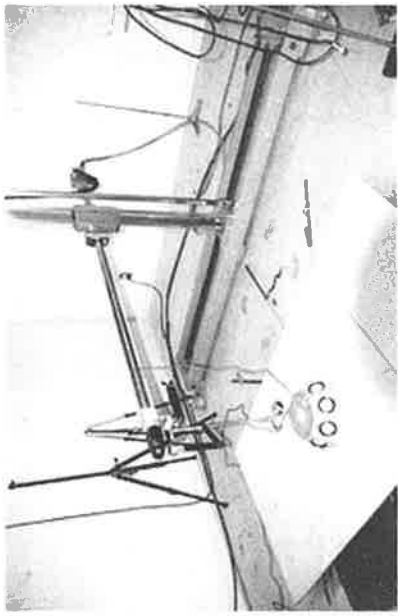
スピーカーの特性測定に同行して 音の方向性、責任分布を

エヌエスエーの社長の杉野謙一さんから、同社で開発したスピーカーを試験所で測定するので同行してほしいとの依頼があり、私自身も測定内容に興味を持っていたのでお受けした。

スピーカーはユニークな形状をしている。ユニットは数個であるが、エンクロージャーは自社開発し、平田彰のエンクロージャーにスピーカー8個を取り付けてある。エ



エヌエスエースピーカー NS-8MAG.



インテンシティ法による測定。仮にスピーカー、音源に測定箇所。

ンクロージャーの材質はアルミニウムで、体格の形状をしている。構造が特殊であり、特性を取得したとのこと。基本的な構造を分解した2次元構造、4次元構造の製品もあり、材質をマグネシウムにした製品もあるとのことである。

野野村社長によれば既に設立以来、技術開発センターでスピーカーの伝送損失特性、音の特性測定などを行っており、今回は同社の測定結果を調べ、音の方向性、責任分布などを知りたかった。

測定は神会川眼科名にある試

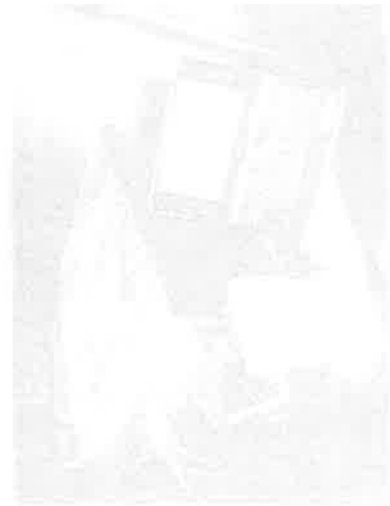
の音を取り込み、音の大きさ、周波数、波影の向き、音がどの方向からマイクロホンに到達したかを演算処理する。

測定結果からは、音源位置の音の特性と今回のインテンシティ測定と同様に結果が得られ、相互の測定結果を比較できているのではないかと懸念される。インテンシティ測定結果のメッシュ化した図からは音源の可視化、方向性を把握でき、スピーカーが持つ特性をより明確なものとしている。

スピーカーメーカーはスピーカーの特性として多くのデータを発表しているが、今回測定したインテンシティ法による測定結果はほとんどと同様ではない。測定がインテンシティ測定が一般に普及していないことも聞くが、スピーカーを導入するときの基礎データとして活用できるのではないだろうか。野野村さんによれば、このスピーカーはスポーツアクアやアイネット施設に多く納入しているとのことである。特性が無拍特性に近いことから、ホール中央天井面に取り付けるという分布の一種な良い結

果が得られると思われる。スピーカーが受音、製造され始めてから、基本的な構造は何ら変わっていないといわれ、この状況はまだしばらくは続くだろう。スピーカーは車庫同席、船内同席、機銃機、機銃機、試験評価など多くの分野と製造現場が機械に組み合わさった装置である。このため、従来の測定方法だけでなく、各分野における測定・計画、人による品質管理を行いスピーカーの特性を制御すること、スピーカーの製造技術の発展に寄与するのである。なお、エヌエーのホームページは、http://0-ac.jp。

(千原博、伊代野正樹)



プロサウンド北から南から